



検査情報月報10月号 ▶ 概要版 ◀



▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などを検査情報月報で解説しています。

医動物・種類同定検査結果（令和4年4月～9月）

▶ 人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫類等の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

主な結果 ▶ 昆虫類4件(カメムシ目1件、コウチュウ目1件、ハチ目2件)、**その他の節足動物3件**(クモ目3件)でした。

夏期食品収去検査結果（令和4年度）

▶ 夏期食品等一斉点検は厚生労働省の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されるものです。横浜市においても令和4年6月1日から8月31日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一部の収去業務を縮小しています。

主な結果 ▶ 食品添加物検査 116検体の食品について、菓子類、野菜類・果実及びその加工品、清涼飲料水を重点的に、保存料、着色料、甘味料など2,491項目の検査を実施しました。

輸入菓子から日本では使用が認められていない酸化防止剤(TBHQ)が検出され、福祉保健センターが輸入者を所管する自治体に調査を依頼しています。

▶ **細菌検査** 魚介類9検体、肉卵類及びその加工品5検体、穀類及びその加工品12検体、清涼飲料水20検体、その他の食品36検体の計82検体191項目について検査を実施しました。**規格基準違反はありません**でした。

遺伝子組換え食品の検査結果（令和4年度）

▶ 遺伝子組換え食品は、内閣府の食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売等が可能になります。横浜市では平成13年度から、安全性が未承認の遺伝子組換え食品が市内に流通していないか、また、適正な表示が行われているかを検査しています。

主な結果 ▶ 安全性未承認の遺伝子組換え食品の定性検査として、トウモロコシ加工品16検体、コメ加工品10検体を検査した結果、**いずれも不検出**でした。

▶ **安全性承認済みの遺伝子組換え食品の定量検査**として、ダイズ穀粒4検体を検査した結果、**いずれも混入率は5%以下であり、違反検体はありません**でした。

横浜市衛生研究所WEBページ情報（令和4年9月）

▶ 当 WEB ページでは、感染症、保健、食品衛生、生活環境衛生、薬事などの情報を提供しています。

主な結果 ▶ アクセス順位1位は「パストツレラ症について」でした。